

『“食”を通じた患者 QOL 向上について』 ～バイキング～

社会医療法人社団沼南会 沼隈病院

栄養管理課

管理栄養士 小林 位江

リハビリテーション課 言語聴覚士 山岡 絵梨

1. 【はじめに】当法人は、ケアミックス型病院であり骨折・脳血管障害亜急性期・肺炎・生活習慣病等の疾患層が中心である。その中で栄養管理課 4 名配属され栄養食事指導・チーム医療・生活習慣病教室等を中心に活動している。
2. 【経緯】“食”は、どのような状況でも人として“楽しみ”の一つである。当病院では 10 年前よりバイキング（1 回/月）を開催している。今回バイキングへ参加した長期療養患者・家族への効果が得られたので若干の知見を加え報告する。
3. 【内容】バイキングへの参加対象は、入院中の一般食・特別治療食（主治医許可有）とし、メニューは通常の入院食にないもの、季節感のあるメニューをベースとした。また ST との連携により嚥下障害のある患者も参加可能として開催した。
4. 【結果】食事摂取量増加、嚥下障害患者食事形態 UP、患者家族の病院への満足度が向上した。
5. 【考察】バイキング実施で、参加者に「見て、選んで、取って」といった自己決定・選択が促せ、Self-efficacy 向上につながった事が因子の一つと考えている。また同時に視覚・嗅覚・聴覚的な感覚刺激も本人・家族の QOL 向上にもつながったものと考察された。しかし食事摂取量向上に伴いアルブミン値等の身体的因子改善までの検討は行えていない。今後は、“食”を、栄養学的・治療的側面をベースに、様々な角度から展開し、楽しんで頂きながらの治療、身体的因子への効果等の研究へ引き続き取り組んでいきたい。

『“食”を通じた患者QOL向上について』 ～バイキング～

○小林 位江 1) 山岡 絵梨 2)

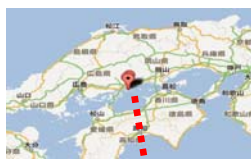
1)社会医療法人社団 沼南会 沼隈病院 栄養管理課
管理栄養士

2)社会医療法人社団 沼南会 沼隈病院 リハビリテーション課
言語聴覚士

1



社会医療法人社団 沼南会 沼隈病院 概要



沼隈病院 理念

私たちは急性期医療から
在宅医療までのトータルケアで、
地域のみなさまの
健康と安全な生活を支援します。



【地域の背景】

沼隈周辺地域
人口 約1万7千人弱
沼隈周辺高齢化率
(65歳以上)
約31%

一般病棟 48床
一般病床 12床
地域包括ケア病床 12床
療養病棟 58床



広島県福山市沼隈町中山469-3
TEL(084)-988-1888 Fax(084)-988-1119
<http://shounankai.or.jp/>



栄養管理課：4名配属

- ◆業務内容
 - 入院外来栄養食事指導
 - 生活習慣病教室等の管理・運営
 - 院内バイキング開催
 - 地域での健康講演
- ◆委員会活動
 - NST委員会、褥瘡委員会、緩和ケア等





目的



- “食”は、人として“楽しみ”の一つ
- バイキング（1回/月）への参加

開始当初（10年前）

平成28年現在



バイキング 風景





症例紹介

【性別】	男性
【年齢】	40歳代
【主要疾患】	脳血栓（発症日：2014年8月25日） 嚥下機能障害（+）
【合併症】	統合失調症
【摂食嚥下】	胃瘻造設 摂食機能訓練は実施
【食事形態】	経管栄養
【血液検査】	ALB : 3.1g/dl Hb : 10.4g/dl TG : 209mg/dl
【栄養・リハ目標】	経管栄養からの離脱、普通食へのUP
【退院目標】	施設退院

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2016



介入内容



管理栄養士

- 体重を維持できる必要加り-までの経口摂取UP
- バイキング参加での介入（本人希望↑）
言語聴覚士と連携 → 常食きざみ食事形態UP
バイキング時 → 1口きざみで食事提供
（主治医許可）
家族にもバイキングへ参加依頼し声かけ等実施

言語聴覚士

- 入院時：気管切開状態→経口摂取へ
- 嚥下機能を適宜チェックし食事形態↑↓
- 管理栄養士と連携しての食事形態調整

Shounankai Numakuma Hospital Fukuyama-Hiroshima Japan 2016





経過



時期	食事形態	カロリー量 (kcal)
入院時	経管栄養	1200
1カ月後	昼のみソフト1/2量	1500
7W後	2食ソフト全量1食経管	1100
9W後	3食きざみあんかけ食	1200
3カ月後	軟菜きざみ	↓
4カ月後	経管栄養	
5カ月後	昼のみソフト	↓
7ヶ月後	3食ソフト	
8カ月後	きざみあんかけ	1700
10カ月後	軟菜きざみ	2000
11カ月後	常食きざみ	2200



結果



	初期	最終 (11ヵ月目)
摂食嚥下	胃瘻造設後 嚥下訓練中	嚥下機能向上
食事形態	経管栄養 1200KCAL	一般食きざみ 水分トロミ 3食経口摂取 2200kcal
食事摂取量	-	全量摂取
血液データ	ALB : 3.1g/dl Hb : 10.4g/dl TG : 209mg/dl	ALB : 4.0g/dl Hb : 13.0g/dl TG : 59mg/dl
栄養・リハ目標	経管栄養離脱 普通食UP	初期目標達成
退院目標	施設退院	自宅退院 (15ヶ月目) (通所介護サービス利用)





考察



◆心理的因子

- バイキング参加により、自己選択・決定による自己効力感 (Self-efficacy) 向上

◆身体的因子

- バイキング参加により、食材での視覚・嗅覚・聴覚的な食思へのポジティブな入力刺激
- 摂食嚥下機能訓練による機能向上



食思の更なる向上
本人・家族QOL向上



ご清聴ありがとうございました。

